

## 質問書に対する回答

(工事名) 道東自動車道 狩勝第二トンネル東工事

### 質問事項と回答

| 番号 | 質問事項   | 回 答  |
|----|--|--|
| 1  | 設計図の図面名：終点側(東側)坑門工一般図(1)に「水抜きボーリング(Φ66mm、ℓ=50m)」が2箇所図示されております。金抜設計書等ではそれに該当する項目が見当たりませんが、どの項目に含まれるのでしょうか。                  | 令和6年8月28日掲載済みの質問書に対する回答をご確認ください。                             |
| 2  | 【④【設計図】道東自動車道 狩勝第二トンネル東工事35/88】<br>図面内に「水抜きボーリング(φ66mm、ℓ=50m)」がありますが、水抜きボーリングの仕様(施工機械、保孔管の有無)をご教示ください。                     | 保孔管の施工は想定しておりません。<br>貴社の施工計画に基づき費用を計上願います。                   |
| 3  | 【④【設計図】道東自動車道 狩勝第二トンネル東工事35/88】<br>図面内に「水抜きボーリング(φ66mm、ℓ=50m)」がありますが、どの単価項目で計上されているか、ご教示ください。                              | 令和6年8月28日掲載済みの質問書に対する回答をご確認ください。                             |
| 4  | 【④【設計図】道東自動車道 狩勝第二トンネル東工事9/88】<br>地質縦断図の終点側坑口部付近に、ボーリング孔TT2-1、TT2-2、TT2-3の標記がありますが、同ボーリング孔はトンネル掘削時の地下水位モニタリングなどに使用可能でしょうか。 | ボーリング孔の内、NEXCO用地内のTT2-3については存置していることから、地下水位モニタリングは可能と考えられます。 |
| 5  | 【①【設計図】道東自動車道 狩勝第二トンネル東工事3/3】<br>「新得工事用道路」は、高盛土施工範囲内にありますが、同工事用道路は路体仕様で施工された盛土と考えて計画してもよろしいでしょうか。                          | 路体仕様の盛土で施工しております。  |

| 番号 | 質問事項  | 回答   |
|----|---|--|
| 6  | <p>参考図5/17の加背割図の数量表が全断面ではなく上部半断面と下部半断面に分けて記載され、余掘り厚もt=130と図示されて、支払い数量も余掘り厚t=130の場合の数値となっていますが、DⅢパターンは機械掘削で計画されているのでしょうか。</p>  | <p>参考図5/17の加背割図はご指摘のとおり機械掘削のものとなっておりますが、本工事は爆破掘削となります。<br/>令和6年8月29日掲載済みの訂正公告をご確認ください。</p> |
| 7  | <p>特記仕様書29-2-4-(1)において構造物掘削の区分内容が「構造物の基礎地盤の土砂及び軟岩の掘削」と有りますが、図面上も数量計算書においても軟岩掘削が有るように見えません。<br/>軟岩掘削の数量をご教示ください。</p>   | <p>土砂の掘削のみで、軟岩の掘削はありません。</p>   |
| 8  | <p>同じく構造物掘削の区分内容が「掘削箇所における仮置、埋戻し」と有りますが、数量計算書では終点側坑門工の掘削が453.3m<sup>3</sup>に対して埋戻しBが1399.5m<sup>3</sup>となっています。<br/>不足土について①購入材を使用、②捨土掘削土砂A2またはA3の一部を道路掘削に変更のどちらでお考えでしょうか。</p>                            | <p>終点側坑門工掘削の埋戻しについては、誤りがありましたので、金抜設計書、数量明細表（契約項目）を後日訂正致します。</p>                            |
| 9  | <p>同様に擁壁工についても構造物掘削2927.5m<sup>3</sup>に対して埋戻しAが2354.7m<sup>3</sup>、埋戻しBが256.9m<sup>3</sup>であり、土量変化率を考慮すると不足しますので、上記同様不足土に対する計画をご教示願います。</p>   | <p>擁壁工の埋戻しについては、誤りがありましたので、金抜設計書、数量明細表（契約項目）を後日訂正致します。</p>                                 |
| 10 | <p>特記仕様書29-5-3では、ずり処理工A1は切羽から本線盛土箇所へ直送、ずり処理工B1も切羽から新得地区ずり置場に直送するような記述になっていますが、「鏡吹付コンクリートの取壊しにより生じたコンクリート殻の分別は坑外ずり積替場にて行う」との記載もあります。<br/>鏡吹付コンクリートを施工する支保パターンについては直送ではなく積み替え方式で計画されているものと考えてよろしいでしょうか。</p> | <p>ご認識のとおりです。</p>  |
| 11 | <p>鏡吹付コンクリートについて、特記仕様書では取壊しに関する記述しか有りませんが、施工に要する費用はトンネル掘削工に含まれるものと考えてよろしいでしょうか。</p>   | <p>ご認識のとおりです。</p>  |
| 12 | <p>注入式長尺鋼管先受工において想定されている対象地山の地質をご教示ください。</p>  | <p>設計図（トンネル工）地質平面縦断図をご確認ください。</p>  |
| 13 | <p>設計図(トンネル工)38/88、41/88、44/88の鉄筋質量表の合計は41.763tになり、数量明細表の24.547tと一致しませんのでご確認をお願いします。</p>  | <p>設計図が正となります。</p>   |

| 番号 | 質問事項   | 回 答   |
|----|--|---|
| 14 | <p>転石処理工の施工方法は決められているのでしょうか。<br/> また、処理した転石は本線に盛土予定でしょうか。<br/> または、自工区外盛土場へ運搬予定でしょうか。</p>  | <p>率計上項目については、受注後に協議を開始する項目であるため、内容に関する質問はお答えできません。</p>                                 |
| 15 | <p>本線（下り線）にて、動態観測工（クロスアーム式沈下計、地中変位計、地下水水位計）の数量と観測回数の記載があります。<br/> 動態観測工の各観測機器は、本線のどこ（平面位置、深さ）に設置するのか、各計測はいつの期間・頻度で観測するのか、変位量の管理値はあるのか、ご教示願います。</p>   | <p>率計上項目については、受注後に協議を開始する項目であるため、内容に関する質問はお答えできません。</p>                                 |
| 16 | <p>設計図（トンネル工）62-63/88<br/> 非常用施設箱抜工図(1) (63/88)において、『CⅠ-a(H)-1-B』の数量表、『DⅠ-a(H)-1-B、DⅢa(H)-1-B』の断面図と数量表がありますが、数量表（断面別箱抜箇所数）(62/88)においてこれらの断面には箱抜数量の表示はありません。<br/> 断面図の『CⅠ-a(H)-1-B、DⅠ-a(H)-1-B、DⅢa(H)-1-B』の表記と数量表（断面別箱抜箇所数）の表記では、どちらが正なのでしょうか。</p>  | <p>非常用施設箱抜工図(1) (63/88)については、不要となります。<br/> 非常用施設箱抜工図(2) (64/88)を参照ください。</p>             |
| 17 | <p>設計図（トンネル工）62, 80/88<br/> 非常用施設箱抜工図(80/88)の数量表で、『CⅡ-a(H)-2-B』とありますが、非常用施設割付図(62/88)の断面別箱抜箇所数を参照しますと、『CⅡ-a(H)-2-B』には箇所数の表記はなく、『CⅡ-b(H)-2-B』に表記があります。<br/> どちらの表記が正なのでしょうか。</p>  | <p>非常用施設箱抜工図(80/88)の数量表の表記は『CⅡ-a(H)-2-B』ではなく、『CⅡ-b(H)-2-B』が正となります。</p>                  |
| 18 | <p>数量明細書(2/10)、参考図4,5/17<br/> コンクリート(C2-1(T))の数量について、『6,431.3m<sup>3</sup>』と記載がございますが、これは設計成果品の数量計算書と同数値となっています。<br/> しかしながら公告図面の加背割図に記載されております『CⅡ-b(H)-2-B、DⅠ-a(H)-2-B、DⅢa(H)-2-B、DⅢa(H)-3-B』のインバートコンクリート単位数量が数量計算書と違うため、公告図面を正とした場合のコンクリート数量は『6,352.1m<sup>3</sup>』となると思いますが、どちらが正しい数値なのでしょうか。</p> | <p>参考図の加背割図(2)『CⅡ-b(H)-2-B、DⅠ-a(H)-2-B』に誤りがありました。<br/> 6,431.3m<sup>3</sup>が正となります。</p> |

| 番号 | 質問事項   | 回答  |
|----|--|---|
| 19 | <p>数量明細書(3/10)、参考図4/17<br/>           コンクリート(T3-4)の数量について、『9,031.6m<sup>3</sup>』と記載がございますが、これは設計成果品の数量計算書と同数値となっています。<br/>           しかしながら公告図面の加背割図に記載されております『CⅡ-b(H)-2-B、DⅠ-a(H)-2-B』の覆工コンクリート単位数量と『DⅢa(H)-3-B』の箱抜工の増減が数量計算書と違うため、公告図面を正とした場合のコンクリート数量は『9,160.1m<sup>3</sup>』となると思いますが、どちらが正しい数値なのでしょうか。</p> | <p>参考図の加背割図(2)『CⅡ-b(H)-2-B、DⅠ-a(H)-2-B』に誤りがありました。<br/>           9,031.6m<sup>3</sup>が正となります。</p> |
| 20 | <p>数量明細書(3/10)、設計図(トンネル工)38,41,44/88<br/>           坑門工の鉄筋Aの数量について、『24.547t』と記載がございますが、公告図面の坑門工(先端つば部、坑口部、坑奥部)のそれぞれの鉄筋質量表の数値を合計すると、『41.763t』(0.572+11.119+30.072=41.763)となると思われます。<br/>           どちらが正しい数値か、ご教示願います。</p>  | <p>設計図が正となります。</p>  |
| 21 | <p>【特記仕様書 17 工事用材料に関する事項】<br/>           以下の材料は、購入材を使用されるのでしょうか。<br/>           ・高盛土排水工/基盤排水層、水平排水層<br/>           ・構造物裏込め工/裏込め工A</p>  | <p>ご認識のとおりです。</p>   |
| 22 | <p>供用中のⅠ期線トンネルの点検結果について、資料を開示していただくことは可能でしょうか。</p>   | <p>Ⅰ期線トンネルの点検結果については、閲覧対象としておりません。</p>  |
| 23 | <p>計測工Aについて、設計図の図面名：計測工割付図(2)では地表沈下測定は坑口からSTA.1100+40付近まで実施する計画となっておりますが、図面名：地質平面・縦断図(3)の平面図から用地境界線を確認すると、STA.1101+50付近から坑奥は用地外と見受けられます。<br/>           計測のために用地外のSTA.1100+40～STA.1101+50区間に立ち入ることは可能でしょうか。</p>  | <p>地権者との協議により立ち入ることは可能と考えております。</p>   |
| 24 | <p>レベルバンクについて<br/>           レベルバンクの品質管理基準は路体と考えてよろしいか、ご教示ください。</p>  | <p>ご認識のとおりです。</p>   |

| 番号 | 質問事項  | 回 答  |
|----|---|--|
| 25 | 坑門工部の掘削土量について<br>坑門工STA1101+87～1102+22間の掘削土量数量算出については、①設計図書の横断図から算出。②数量計算書（参考図書）の坑門工（道路掘削）から算出。がありますが、①を使用と考えてよろしいか、ご教示ください。  | 坑門工STA1101+87～1102+22間の掘削土量数量算出については、②数量計算書（参考図書）の坑門工（道路掘削）から算出とお考えください。 |
| 26 | 坑門工 被覆盛土工について<br>坑門工 明かり部被覆盛土の品質管理基準は、路体と考えてよろしいか、ご教示ください。  | 土工施工管理要領に基づいてお考え下さい。   |
| 27 | 高盛土排水工 基盤排水層の構造について<br>基盤排水工の構造は、標準横断図に「じゃかご構造」にて記載されています。<br>特記の区分内容、設計計算書等には構造に関する記載がありません。<br>構造及び数量明細書をご提示願います。   | じゃかごの施工は想定しておりません。<br>特記仕様書29-11高盛土排水工と標準横断図に記載のとおりとなります。                |
| 28 | 鉄筋Aの数量について<br>数量明細書 坑門工の数量24.547 tとなっています。<br>交付図面の配筋図（坑口＋奥部）集計表からですと41.191 tとなります。<br>計算書を確認すると数量集計で操作されていますが、何か理由があるのかご教示ください。  | 設計図が正となります。  |
| 29 | 【補助工法一般図 29/88】<br>設計図によると、注入式長尺先受工は、坑外からも含めて、27本×8間＝216本と読み取れますが、設計数量は189本です。<br>設計数量に間違いはないでしょうか。   | 216本が正となります。   |
| 30 | 【特記仕様書 P11 工事用道路の指定】<br>⑦新得工事用道路が工事の進捗に伴い通行不可となった際に、⑧工事用進入路より土運搬を行うとありますが、高速道路を使用した、新得町有地盛土場までの、土運搬経路を指定していただけませんか。<br>また、ずり処理工A2、ずり処理工B1の数量の内、高速道路を使用した数量を教えてくださいませんか。 | 割掛対象表の有料道路料金費をご確認ください。<br>⑧工事用進入路を使用したずり処理工の施工は想定しておりません。                |
| 31 | 【割掛対象表参考内訳書4/5 のり面仕上げ費】<br>切土のり面仕上げの土質は、すべて土砂と考えて良いですか。<br>土砂以外の土質が含まれる場合、土質別の数量をご教示ください。   | すべて土砂を想定しております。  |

| 番号 | 質問事項  | 回 答  |
|----|---|--|
| 32 | <p>【割掛対象表参考内訳書5/5 仮囲い費】<br/>           仮囲いの積算条件について、<br/>           ①施工は設置のみと考えて良いですか。<br/>           ②使用材料は中古購入と考えて良いですか。<br/>           リースの場合、仮囲いの設置期間をご教示ください。</p>  | <p>設置のみの施工と考えており、材料は中古品相当を想定しております。</p>  |
| 33 | <p>【設計図(トンネル工) 84、86～88/88】<br/>           避難連絡坑はSTA1089(CⅠ)とSTA1096(CⅡ)の2箇所がありますが、以下の①～④の数量はCⅠ、CⅡのパターンに関係なく同一数量と考えて良いですか。<br/>           ①扉部、②接続部覆工取壊し工、③補強工、④防護工<br/>           設計図(トンネル工)84、86～88/88には、STAおよびCⅠ、CⅡのパターン記載がないため、共通の図面と解釈されます。</p> | <p>ご認識のとおりです。</p>  |
| 34 | <p>【金抜設計書 番号20】<br/>           坑門工のインバート部は、繊維補強コンクリート(A1-3(T))を使用すると考えて良いですか。<br/>           金抜設計書 番号20コンクリートA1-3(T)の数量は、坑門工の坑口つば部、アーチ部、インバート部の数量の合計になっています。</p>  | <p>特記仕様書29-4 コンクリート構造物工 (2) 材料をご確認ください。</p>  |
| 35 | <p>【金抜設計書 番号31】<br/>           型わくT(L)の数量に、拡幅妻部18.5m<sup>2</sup>×2箇所=37m<sup>2</sup>の数量が含まれていないと思われます。<br/>           金抜設計書 番号31 型わくT(L)の数量に間違いはないですか。</p>  | <p>1585.6m<sup>2</sup>が正となります。</p>   |
| 36 | <p>【金抜設計書 番号32】<br/>           型わくT(S)の数量内訳をご教示ください。<br/>           金抜設計書 番号32 型わくT(S)の数量458.4m<sup>2</sup>と数量計算書(閲覧資料)の数量が一致しておらず、セントル型わくと扉部型わくの数量が分かりません。</p>   | <p>セントル型わく419.4m<sup>2</sup>、扉部型わく39.0m<sup>2</sup>の合計458.4m<sup>2</sup>となります。</p> |
| 37 | <p>【設計図(トンネル工) 31/88】<br/>           設計図(トンネル工)31/88、本体工補強鉄筋図(2)鉄筋材料表右肩の「L=5.75m当り」は「L=8.5m当り」ではありませんか。</p>   | <p>L=8.5m当りが正となります。</p>  |

| 番号 | 質問事項  | 回 答  |
|----|---|--|
| 38 | <p>【数量明細表(契約項目)】<br/> 数量明細表の「トンネル掘削」と「ずり処理工」の数量が一致しません。<br/> 数量に間違いはないですか。<br/> 本坑および避難連絡坑の掘削数量がそれぞれ118,27.8m<sup>3</sup>、623.5m<sup>3</sup> に対し、<br/> ずり処理工の数量は118,040.2m<sup>3</sup>、598.8m<sup>3</sup> です。</p> | <p>ずり処理工の数量はそれぞれ118,527.8m<sup>3</sup>、623.5m<sup>3</sup>が正となります。</p>  |
| 39 | <p>技術提案「トンネル坑口部付近の地山強度に対する調査・計測に関する提案」で、トンネル坑口部とは、STA1100+80～STA1102+22の地山等級DⅢ区間および坑門工区間の計142m間と考えてよろしいでしょうか。</p>   | <p>本工事において、貴社の考える坑口部付近に関する提案をお願いします。</p>                               |
| 40 | <p>高盛土排水工 水平排水層、基盤排水層に使用する材料は購入材でしょうか。</p>  | <p>ご認識のとおりです。</p>  |
| 41 | <p>ふとんかご工の中詰材（栗石又は切込砕石）は購入材でしょうか。</p>   | <p>ご認識のとおりです。</p>  |
| 42 | <p>新得工事用道路は、Ⅰ期線の本線盛土と同様の品質であると考えてよろしいでしょうか。<br/> また、新得工事用道路の表土は、横断図の数量には含まれていませんがⅠ期線の本線盛土と同様に鋤取り新得町有地盛土場への運搬、敷均し（捨土掘削土砂（表土）A1と同様）を実施すると考えてよろしいでしょうか。</p>  | <p>新得工事用道路の品質についてはご認識のとおりです。<br/> 新得工事用道路の表土削り取りを実施することは想定しておりません。</p> |
| 43 | <p>令和6年度版 土木工事積算基準(4週8休)P19-7、4-2 労働賃金に記載されております、『労務賃金=基本賃金×(1+補正率)』の補正率は少数何位までを考慮頂いているのでしょうか、ご教示願います。</p>  | <p>積算に関する質問についてはお答えできません。</p>  |
| 44 | <p>上記質問で求められた補正率の端数処理について、下記の内どの処理になるのかご教示願います。<br/> ①有効桁以下全て切り捨て<br/> ②有効桁以下四捨五入<br/> ③有効桁以下全て切り上げ<br/> ④有効桁の縛りなし<br/> ⑤その他<br/> ※その他の場合は、端数処理について具体的な処理方法をご教示願います。</p>  | <p>積算に関する質問についてはお答えできません。</p>  |

| 番号 | 質問事項   | 回答                     |
|----|--|------------------------|
| 45 | <p>令和6年度版 土木工事積算基準(4週8休)P19-7、4-2 労働賃金に記載されております、『労務賃金=基本賃金×(1+補正率)』の補正率を求める際の構成比を乗じる前の時間補正值は下記の内どの値なのでしょうか、ご教示願います。</p> <p>①0.062<br/>②0.063<br/>③0.0625<br/>④その他</p> <p>※その他の場合は、具体的な数値もしくは計算方法をご教示願います。</p> | 積算に関する質問についてはお答えできません。 |